

<b>〔科目名〕</b> 労働経済学	<b>〔単位数〕</b> 4 単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門・基幹科目
<b>〔担当者〕</b> 大矢奈美	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 学期開始時に連絡します。 <b>場所:</b> 研究室(523)	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>指定テキストにもあるように、労働経済学とは「経済学で労働の問題を説明する学問」ということができるでしょう。ミクロ経済学で学んだ理論を労働市場に適用して考えてみるということが、労働経済学の第一歩です。まず均衡概念を用いて労働供給・労働需要を考えますが、「労働」に関しては政府等によって実際に観測・収集されたデータが存在します。よって統計的な手法によって理論と現実の整合性を確認したり、政策の効果を考察することも可能です。</p> <p>前半では労働経済学の概念を学びます。後半では、それを基にして高齢者雇用や人的資本投資などの具体的な問題をとりあげ、数量データの分析による研究成果なども紹介することを予定しています。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>一年次秋学期に履修した日本経済概論の後半では、雇用についても学びました。この科目では、主にミクロ経済学から労働市場の仕組みを考えるとともに、具体的な社会問題をについても考えます。</p> <p>労働経済学で取り上げる問題には働き方の見直しや処遇の平等化への取組などがありますが、これらは長時間労働をなくす、正規雇用と非正規雇用の格差を是正するというにとどまらず、社会保障や財政の問題にも密接に関連しています。たとえば、長時間労働が美德とされる社会故に労働市場に参加していなかった（するのを諦めていた）女性が活躍する場を得る、それによって年金財政にも影響が及ぶでしょうし、それを後押しするための社会福祉（子育て支援）も充実させる必要があります。問題は単一で存在するのではなく複雑に関連しあっているのです。ミクロ経済学で学ぶ理論を応用する分野としての入り口でもあります。社会問題をどのようにとらえて政策を立てているのかといったことを考えるきっかけにもなればと思います。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間目標 労働経済学の基本的な性格を理解し、基礎を身につける</li> <li>・最終目標 現実の労働問題を経済理論や統計データから考察する姿勢と視点を身につける</li> </ul>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>授業の内容自体は概ね良好な評価を得られたようです。プロジェクトに投影した資料に書き込む形で説明を加えることについては「分かりやすい」という評価があった一方で、「文字が読みにくい」といった意見もありました。ハード面での限界もありますが、極力、見やすいものになるように努めます。</p>		
<b>〔教科書〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清家篤/風神佐知子『労働経済』 東洋経済新報社, 2020 年 このほか、適宜、レジュメなどで補足します</li> </ul>		
<b>〔指定図書〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大森義明『労働経済学』日本評論社, 2008 年</li> </ul>		
<b>〔参考書〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川口大司『労働経済学—理論と実証をつなぐ』 有斐閣, 2017 年   ほか、授業の中で紹介する。</li> </ul>		
<b>〔前提科目〕</b> 日本経済概論、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学 など。 前提科目ではありませんが、計量経済学や実証経済分析も履修を検討してください。		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>①確認のための小テスト ②期末試験</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>上記の合計点の80%以上をA, 70%以上80%未満をB, 60%以上70%未満をC, 50%以上60%未満をD, 50%未満をF とします。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>経済理論の基礎を学んできた皆さんには、それを応用する入り口となる科目です。労働市場を分析するための理論はもちろんですが、現実の問題を紹介しながら、経済学的な視点で社会問題を考えるとはどういうことかを伝えられるような授業にしたいと考えています。教科書の情報はやや古くなっているものもあるので、適宜、資料を配布して補足します。</p> <p>この授業は出席をとりません。授業に参加する意欲のない受講生に対して意欲を喚起するような特別な取り組みもしません。この授業からどれだけのものを得るかは、皆さん次第です。労働市場と社会に対する興味関心をもって授業に参加してください。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ (何を学ぶか) : ガイダンス, 労働経済学とは何か 内 容 : ガイダンス (授業の進め方について) / 労働経済学とは何か</p> <p>教科書・指定図書 第1章</p>
第2回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労働供給 1 内 容 : 所得余暇平面</p> <p>教科書・指定図書 第2章</p>
第3回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労働供給 2 内 容 : 就業選択と最適労働供給時間の決定</p> <p>教科書・指定図書 第2章</p>
第4回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労働需要 1 内 容 : 労働需要の決定要因</p> <p>教科書・指定図書 第3章</p>
第5回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労働需要 2 内 容 : 最適労働需要の決定と労働需要曲線の導出</p> <p>教科書・指定図書 第3章</p>
第6回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 失業 1 内 容 : 失業とは何か, 失業にかんする経験法則</p> <p>教科書・指定図書 第4章</p>
第7回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 失業 2 内 容 : 失業対策</p> <p>教科書・指定図書 第4章</p>

第8回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 賃金 1          内 容 : 年功賃金の理論的説明          -          教科書・指定図書 第5章</p>
第9回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 賃金 2          内 容 : 能力・成果主義賃金, 賃金格差の実態            教科書・指定図書 第5章</p>
第10回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 賃金 3          内 容 : 最低賃金の意義と動き            教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労働時間 1          内 容 : 労働時間の趨勢            教科書・指定図書 第6章</p>
第12回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労働時間 2          内 容 : ワーク・ライフ・バランス, 働き方改革            教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労働市場における情報の役割          内 容 : 労働市場=情報不完全市場, 内部労働市場            教科書・指定図書 第7章</p>
第14回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 第I部 (基礎編) のまとめ          内 容 : これまでの復習, <u>確認のための小テスト</u>            教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 経済の構造変化と労働市場          内 容 : 経済の構造変化が労働市場にもたらした影響            教科書・指定図書 第8章</p>
第16回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 高齢者雇用 1          内 容 : 高齢者労働力率のトレンドと高齢者の就業決定            教科書・指定図書 第9章</p>
第17回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 高齢者雇用 2          内 容 : 高齢者労働力に対する需要            教科書・指定図書 第9章</p>
第18回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 高齢者雇用 3          内 容 : なぜ高齢者雇用に注目があつまるのか - 社会保障制度とのかかわり            教科書・指定図書</p>
第19回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 女性雇用 1          内 容 : 女性雇用の変遷            教科書・指定図書</p>
第20回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 女性雇用 2          内 容 : 家計内生産モデル            教科書・指定図書 第10章</p>

第21回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 女性雇用 3          内 容 : サーチモデルとスイッチングモデル, 既婚女性の就労</p> <p>教科書・指定図書 第10章</p>
第22回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 女性雇用 4          内 容 : 社会制度と既婚女性の労働供給</p> <p>教科書・指定図書 第11章</p>
第23回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 人的資本理論 1          内 容 : 企業特殊的人的資本と一般的人的資本</p> <p>教科書・指定図書 第12章</p>
第24回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 人的資本理論 2          内 容 : 雇用流動化と人的資本投資のゆくえ</p> <p>教科書・指定図書 第12章</p>
第25回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労働力のフロー表          内 容 : フローという概念、統計にみる労働力の推移</p> <p>教科書・指定図書 第13章</p>
第26回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 雇用調整 1          内 容 : 雇用調整とは何か</p> <p>教科書・指定図書 第14章</p>
第27回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 雇用調整 2          内 容 : 雇用調整係数 (産業による違い、国による違い)</p> <p>教科書・指定図書 第14章</p>
第28回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労使関係 1          内 容 : 労働組合の役割と組織率の低下</p> <p>教科書・指定図書 第15章</p>
第29回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労使関係 2          内 容 : 労使紛争の変遷と新たな課題</p> <p>教科書・指定図書</p>
第30回	<p>テーマ (何を学ぶか) : これまでのまとめ          内 容 :</p>
試験	第1回～第30回の内容から出題します